

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***旧図書館の雑BOX-⑬(西左7-2)の乾板について(30cm反射望遠鏡)**

天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台に残された写真乾板の整理を行っている。旧図書館に保管されている天体写真乾板についてはS君が整理を行っており、この整理の中で天体写真以外の雑乾板について筆者が引き受けデジタルデータとして取り込むことを進めている。今回は写真乾板の箱「雑BOX-⑬西左7-2」と書かれた乾板箱に入っていた写真乾板5枚の報告である。写真1が入っていた箱の写真である。

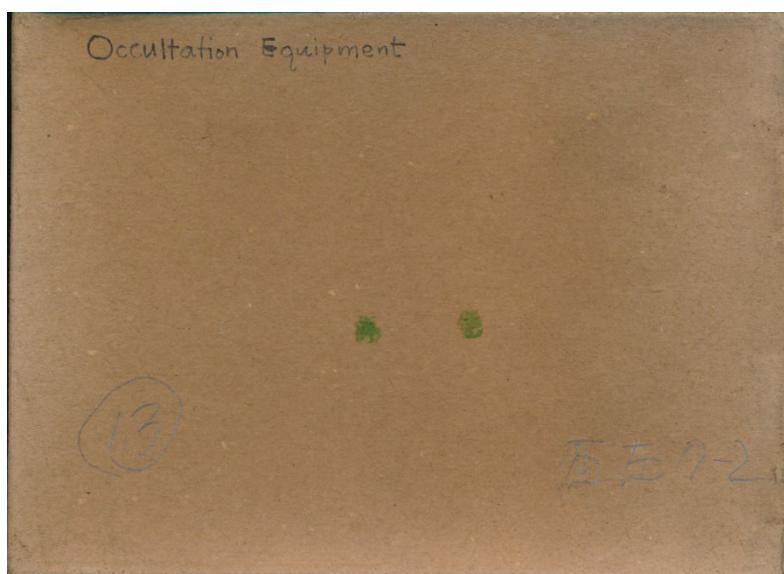


写真1 箱にはOccultation Equipmentと書かれている

写真2が5枚の乾板のサムネイルである。



写真2 雑BOX-⑬に入っていた乾板のサムネイル

箱の面に書かれているように、この箱の中にはOccultation掩蔽に使われた30cm反射望遠鏡と掩蔽観測小屋の写真のようであるが、膜面の傷みがひどく何が撮影されたのは分からない写真もある。サムネイルNo.1の写真だけがわずかに損傷が少なく30cm反射望遠鏡の姿を残している(写真3)。



写真3 掩蔽観測に使われた30cm反射望遠鏡

写真3の望遠鏡は、現在、天文機器資料館に収蔵してあるもの（写真4）と思われる。



写真4 天文機器資料館に収蔵の30cm反射望遠鏡の筒

これらの写真の包んだ硫酸紙には 1951 年と書かれている。この掩蔽観測用に 3 台の 30cm 反射望遠鏡は製作されたと伝えられ、1 台が写真 4 の望遠鏡で、この鏡筒には主鏡、副鏡など光学系はすべて失われている。1 台は掩蔽観測に使われなくなった後、卯酉儀室に設置され、大沢清輝先生が光電観測を始めた望遠鏡であり、その後、1974 年頃から筆者が光電 3 色測光でいろんなタイプの変光星の観測に使った（写真 5）。しかし、この望遠鏡は筆者が観測に使わなくなってから、いろいろな開発用の道具として使われ、現在は赤道儀はなく、主鏡、副鏡が入った鏡筒のみで天文機器資料館に収蔵されている。



写真 5 筆者が使っていた頃の 30cm 反射望遠鏡

残りの 1 台は一時東京大学に在籍した佐藤英男氏が 30cm 望遠鏡ドームで光子カウンターによる変光星観測に使った。



写真 6 佐藤英男氏が使っていた時代の 30cm 反射望遠鏡

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp